

かほくワークシート

稀勢の里 稽古再開「いい姿見せる」

大相撲の新横綱稀勢の里が1日、東京都江戸川区の田子ノ浦部屋で稽古を再開した。2連覇を目指す春場所（3月12日初日・エディオンアリーナ大阪）に向け「土俵上でいい姿を見せるのが仕事」と、責任をかみしめながら意欲を語った。

19年ぶりに誕生した日本出身横綱への関心は高い。稽古に集まった報道陣は約40人。新横綱が顔を向けるたびにカメラの激しいシャッター音が鳴り響いた。今後も一挙手一投足が注目されそう。「影響は多少はあるけど、まあ、ありがたい」と苦笑いをする。

先人の例を見ると、最高位として



春場所に向け、稽古を再開した新横綱稀勢の里

の重圧の中で、持っている力をいぎなり発揮するのは難しそうだ。年6場所制となった1958年以降に昇進した鶴竜までの27人で、新横綱の場所を優勝したのは大鵬、稀勢の里の先代師匠でもある隆の里、貴乃花の3人だけだ。白鵬は11勝、日馬富士と鶴竜は9勝止まりだった。

2月は巡業がなく、自分のペースで調整ができる。1日は四股やすり足を1時間強、淡々と行った30歳の稀勢の里。騒がしい周囲をよそに特別に変わることはない。しっかり稽古をして、本場所できかにいい相撲を取るかを考えるだけ」と言い切った。

(2017年2月2日河北新報朝刊)

①日本出身の横綱が誕生したのは何年ぶりですか。

②文中にある稀勢の里のせりふを抜き出し、下の（ ）に合う言葉を入れましょう。
（ ）のが仕事
しっかり（ ）をして、
本場所で（ ）考えるだけ。

③②から、稀勢の里が相撲にどのような思いで取り組んでいるのかを考えて書きましょう。

年 組 名前

(中学生／朝の会前10～15分)